

★ 2014年度の主な事業計画書 ★

(2014年4月1日～2015年3月31日)

箕面の山麓保全を推進する公益信託「みのお山麓保全ファンド」創設10年を契機としてNPO山麓委員会の事務所拡充・移転を活かした中間支援組織としての機能強化につとめます。公益信託の仕組みは、森林の保全に必要な資金や労力を山林所有者のみが負担するのではなく行政を含めた市民全員がその役割を担い、山林所有者、市民、行政の三者が協働して山麓保全に取り組んでいくという「人と資金の循環」に支えられた仕組みです。市から資金と中間支援組織をアウトソーシングすることにより活発な活動が行われ、市直営ではなしえない多彩な「協働」の成果をあげましたが、再度、原点にもどり、四季折々に美しい箕面の森を次世代に残すために、「人と資金の循環」に支えられた持続可能な仕組みを、今後どのように構築していくかなどを課題として、着実に事業を推進します。

重点的に実施する事業

1、情報の共有化とPR・広報の強化

基本的な情報をみんなで共有し主体的に活動するために、山麓保全活動の情報発信を強化します。ホームページ「山なみネット」による情報発信、ニュースレター「山なみ通信」の発行や市民イベントの開催や支援などを継続して行います。

2、情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり

明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の場を活用して、行政（国・府・市）と市民団体の協働により、「シカによる食害」対策の本格的な実施のためのモニタリング調査などに注力します。「生物多様性の保全」の計画づくりを行う他、新たに「里山カフェ」（仮称）をスタートします。行政や山林所有者との情報の共有化と自由な意見交換による新しい活動の場づくりに注力します。

3、山林所有者との関わり強化

三者協働の原点にもどり、山林整備ボランティア派遣の件数拡大や里山管理活動などを通じて市民と山林所有者との関わりを強化します。公益信託の仕組みや山林整備ボランティア派遣のPRを行う他、「里山カフェ」（仮称）に山林所有者にも参加してもらうことにより、山林所有者との関わりを強化し、新たな幸づくりを目指します。

4、資金の循環の仕組みづくり

山麓保全活動の情報発信により、箕面の森を守る公益信託の仕組みの継続に賛同していただける「箕面の森の守りびと」（公益信託「みのお山麓保全ファンド」サポート会員）を増やします。山麓保全活動と「箕面の森の守りびと」募集のチラシを刷新し、共感の輪を広げます。

5、人材育成と活動組織の育成

みのお森の学校の拡充・発展を目指す他、自然学習・山麓学習などの人材育成事業を継続して行います。あわせて、自分がやりたいと思っている事や社会のニーズがある活動をスムーズに適切にスタートできるように、山麓保全ファンドの活用（資金面）や関係セクションとの調整などを通じて、新しい活動の育成に注力します。

事業を推進するために

○、ボランティアが推進する前向きな組織づくり

山林所有者や行政など立場の違う関係者と基本的な情報の共有化や意見交換を行い、活動方針を共有し、市民が主体となり役割分担を明確にしながら、段階的に出来ることから始めます。一部の人だけでなく、みんなが推進する持続的な活動が可能な活動づくりに注力します。

■ 主な事業計画

1. 広報事業（情報の共有化とPR・広報強化の事業）

（インターネットを利用した広報）

1-1、ホームページ（山なみネット）による広報強化、及び情報公開

NPO山麓委員会の部会活動や山麓保全活動団体から情報提供をしていただき、山なみネットのブログやイベントカレンダーを通じて、タイムリーな情報発信や情報公開に努めます。

NPO山麓委員会が事務局を担当している明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動紹介のコーナーを山なみネット内に設置して、情報発信や情報公開に努めます。

【予算額】 直接費 150千円

（紙媒体などによる広報）

1-2、全世帯向け広報

箕面市の全世帯対象に、山林所有者や市民団体の活動促進、及び「箕面の森の守りびと」（公益信託「みのお山麓保全ファンド」サポート会員募集を目的として、箕面市広報紙「もみじだより」に広報を行います。8月号では「みのお森の学校」の生徒募集を掲載します。

1ページ広告掲載は年2回、2月・8月号を予定

【予算額】 直接費 300千円

1-3、ニュースレターの発行

ニュースレター「山なみ通信」を年4回（7月・10月・1月・3月予定）発行します。

「箕面の森の守りびと」（公益信託「みのお山麓保全ファンド」サポート会員を中心に、出来るだけ多くの市民の方に配布し、箕面の森の保全活動の情報発信を行います。

【予算額】 直接費 160千円

（イベントを通じた広報）

1-4、イベントの開催・出展

「山とみどりの市民イベント」（10月26日）を開催し、箕面の自然に親しむ体験活動や各団体のPR活動を支援する他、阪急箕面駅前ステージを活用したイベントをテスト的に開催します。

その他、「箕面の森の音楽会」などのイベントにも協力します。

【予算額】 直接費 40千円

2. 山麓保全交流事業（情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業）

2-1、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動

国有林を対象として、京都大阪森林管理事務所・大阪府北部農と緑の総合事務所・箕面市等の行政と市民団体で構成する協議会の事務局を担い、協議会例会（年7回予定）を開催します。

行政（国・府・市）との情報の共有化・意見交換・役割分担により「シカの食害」対策の実施や「生物多様性の保全」など、自然休養林の保全と利活用に取り組みます。

今期は、特に「シカによる食害」対策である頭数管理やモニタリングなどの活動に注力します。

2-2、里山カフェ（仮称）の活動

山林所有者や里山管理活動団体との意見交換の場、山の幸などの新しい活動を生み出す場として里山カフェ（仮称）を開催します。

【予算額】 直接費 20千円

3. 山林所有者関連事業（山林所有者との関わり強化事業）

3-1、山林所有者へのPR・広報

山林所有者による「自然緑地」同意率50%（面積比）を目標に、個別対応を中心として情報発信を行います。公益信託の仕組みや山林整備サポーターの取り組みなどをPRします。

3-2、山林整備サポーターの派遣など

「山麓ファンド」の助成を受けた山林所有者の山林整備作業を手伝うボランティア派遣の積極的なPRを行い、山林所有者からの要請件数31件以上を目標として、多くの里山管理ボランティアの協力を得て、山林整備サポーターの派遣を拡大します。

4. 「山麓ファンド」への募金活動（人と資金の循環の仕組みづくり事業）

箕面のみどりを守るために毎年1,000円以上寄付をしていただける「箕面の森の守りびと」（公益信託「みのお山麓保全ファンド」サポート会員）を、目標200人、募金額100万円以上をめざして、草の根による「山麓ファンド」の発展・継続への民意の拡大を図ります。

「箕面の森の守りびと」（公益信託「みのお山麓保全ファンド」サポート会員）のチラシを刷新します。

【予算額】 直接費 20千円

5. 人材&活動組織の育成事業

5-1、「みのお森の学校」の刷新による山麓保全活動の人材育成

「みのお森の学校」10年を契機として、9月から翌年6月の10日間（別途オプション1日）に、多様なニーズをつなぐ「人と自然の入門講座」として開催します。

【予算額】 直接費 200千円

5-2、「山麓学習（箕面の自然学習）」を担える人材の育成

スクールインタープリター養成講座（5月30日）を開催し、小学校の山麓学習・自然学習授業や環境学習を担える人材育成を進めます。小学校の授業とあわせて、社会福祉協議会による学童保育に協力して身近な自然を感じる山麓学習活動をスタートします。

【予算額】 直接費 50千円

5-3、新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

各種交流事業での意見交換や山麓保全ファンドの助成申請相談等の場を通じて、新しいニーズに対応した市民ボランティア組織の立ち上げの支援します。

6. 企画及び調査・研究事業

6-1、「ナラ枯れ」被害防止策の実施

過去の活動の成果により、一定の「ナラ枯れ」被害の拡大防止が図られていることから、今期も継続して行政（国・府・市）と連携しながら、被害木の早期発見と粘着シートを活用した応急処置などを重点的に実施します。あわせて多くの市民の協力を得るための啓蒙活動を行います。2014年度も、重点年度と位置付けて、「ナラ枯れ」被害の拡大防止策を強化します。

【予算額】 直接費 400千円

6-2、「みのおの森林セラピー」の事業化の研究

「こころと身体健康増進」を切り口とした「みのおのセラピー」の事業化に向けて、研究会を中心に、PR・広報の充実を含めて事業基盤の確立に向けた研究を行います。

【予算額】 直接費 100千円

6-3、生物多様性の保全に向けて

明治の森箕面自然休養林管理運営協議会による「シカによる食害」対策と連携しながら、定期的な「生きもの会議」の開催により、情報交換と意見交換を行い、生物多様性の保全に向けたネットワークの構築を図ります。

市民の関心が深い「ホテル」の鑑賞・観察や保全活動の発信に注力します。

7. 「山麓ファンド」助成事務サポート事業

7-1、助成申請の受付や活動促進など

「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談、及び助成申請を審査する「山麓ファンド」運営委員会の資料作成など、山麓ファンド助成サポート事務を行います。市民団体による活動や、山林所有者の「自然緑地」の同意を前提とした助成申請による山の手入れの活動を促進します。あわせて、施設整備などハード事業を対象とした「特別助成」を活用した活動立ち上げを促進します。

7-2、助成事業の支援や進捗確認など

「山麓ファンド」の助成を受けた団体や山林所有者による活動支援や、活動の進捗確認などを行います。

8. 箕面ビジターセンター自然解説事業

8-1、自然解説活動

自然解説活動として、土日・祝日を中心として夏休み・11月の平日を含めた「年164日以上自然解説員の派遣」「年24回以上の自然観察会の開催」年4回の自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」季刊号などの発行（各2000部）、及び季節に応じた展示室の「企画展示」などを、多くの市民ボランティアや施設管理者や行政との協働の中で推進します。

【予算額】 直接費 1,400千円

8-2、企画活動

定期的な「友の会」（企画会議）の開催により、意思決定と計画実行を図り、多くの市民団体や個人と連携や協力を得て、ビジターに喜んでいただけるような自然解説活動を行います。自然情報誌や企画展示の外注化（有償ボランティア）により、業務のスピードアップと内容の刷新を更に進めます。

8-3、PR・広報活動

ホームページ「山なみネット」による季節の情報発信や活動紹介を行う他、山麓部や国定公園内の安心・安全情報の発信などに注力します。

*上記の予算額は、ホームページ広報費・事務局長人件費などを除く

■ 事業推進のために（一般管理 & 組織運営 について）

（新たな公共としてのニーズ拡大）

山麓保全アクションプログラムによる、13の「山麓保全・活用プログラム」による多様な山麓保全活動が進み、中間支援組織であるNPO山麓委員会の新たな政策提案の主体としてのポジションが高まる中で、先進性や専門性が求められ、また新たな公共の担い手として、行政との「協働」のパートナーとしてのニーズや期待が高まり、活動領域が多様化しています。

1、事務局体制の安定・強化と財務体質の改善

1-1、事務所機能の移転・拡充を活かした山麓保全活動の継続的な発展

阪急箕面駅前（サンプラザ2号館）の事務所立地を活かした箕面駅前ステージのイベント実施など、事務所機能の移転・拡充を活かした山麓保全活動の発展・継承を目指します。

1-2、事務局体制の安定・強化

山麓保全活動の発展継承を目的として、中間支援組織としての事務局体制の強化を図ります。出来る限り、箕面ビジターセンターの自然情報誌や展示室の企画業務を外注化（有償ボランティア）して、事務局業務のスピードアップと効率化を図ります。

1-3、財務体質の改善

公益的な受託事業を着実に行うことにより、「山麓ファンド」の事務委託費に過剰に頼らないような財務体質の改善を継続して行います。

（組織運営）

2、情報の共有化とネットワークづくり

ホームページの情報鮮度の高いページ更新、及び山なみ通信の配信、協議会活動などにより広く山麓保全活動の情報発信を行い、取り組みの仕組みや現状について広く理解を得ながら情報の共有化を図り、山麓保全活動のネットワークづくりに注力します。

3、ボランティアが推進する前向きな組織づくり

基本的な方針や情報を共有し、それぞれが主体となり役割分担を明確にして、段階的にできることから始めて、持続的な活動が可能となるような前向きな活動組織づくりを行います。また、事務局や特定の個人に活動が集中することのないように配慮し、理事や会員が主体的に行動を起こすなど、ボランティアが推進する前向きな組織をつくります。山麓保全活動に賛同し、主体的な活動を行える会員を順次、増やします。